

平成二十八年 度

国

語

(B 日程)

(解答はすべて解答用紙に記入しなさい)

## 一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

さて、いよいよ次はインターネットです。いまや図書館よりも先にインターネットで調べる人が大半かもしれませんね。最初に調べたいことの概要を把握するにはじつに便利な手段です。

近年は実名による情報発信も増え、情報に対する責任の所在が明らかなケースが多くなりました。フェイスブックやツイッター、LINEのような人と人をつなぐSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を通じて、多様な情報を短時間で収集できるのもインターネットの魅力でしょう。

ただインターネットを利用する際に注意しておかねばならないのは、その情報が正しいかどうか分からないということです。

ここは新聞や雑誌、単行本など紙のメディアのほうがインターネットよりも圧倒的に強いところです。

新聞や雑誌の記事は、最初に取材した記者が情報入手してから、活字になってみなさんの目にふれるまで複数の人たちが内容や文章を確認します。校正や校閲<sup>こうえつ</sup>といって文章の誤りや適否を確認する専門家も目を通し、誤りや疑問点があれば執筆者<sup>しつぴつしゃ</sup>に戻します。書いた本人だけでなく、ほかの記者や編集者が真偽<sup>しんぎ</sup>を確かめることもあり、これを「ウラをとる」といいます。

新聞や雑誌よりはるかに長く読まれる単行本となるとさらに慎重で、この確認手続きを何回も繰り返します。本の内容や印刷の具合によつては、執筆に要した期間より確認する期間のほうが長い場合もあります。辞書や事典、教科書などはその究極の本でしょう。それでも出版されてから誤りを指摘<sup>してき</sup>されることがあるのですから、何度確認しても確認しすぎることはないのです。

このようなプロセスを経てつくられた新聞記事や単行本がデジタル化されてインターネットに掲載<sup>けいさい</sup>されている場合は問題ありませんが、インターネット発の情報の多くはまだそのレベルの確認過程を経いていません。

匿名<sup>とくめい</sup>の人を含む複数のボランティアが書き込むことができる無料の辞書、ウィキペディアにも誤りはたくさんあります。読んだり誤りに気づいた人が修正・削除<sup>さくじょ</sup>するのは容易ですが、それはすなわち、情報の質にさまざまなレベルがあるということです。

インターネットの情報の質を確かめるには発信元が一つの目安になります。発信元とは、その情報を発信している人や機関のことをいいます。

掲載までに複数の人によって確認される新聞社や出版社のニュースサイト、省庁や図書館、博物館、企業、大学、研究機関な

どの公式ホームページは信頼性が高いでしょう。

A、富士山についてインターネットで調べる場合は、環境省と静岡県と山梨県がつくった「富士山における適正利用推進協議会」が主宰する「富士登山オフィシャルサイト」という公式ホームページがあります。こちらは富士山に登る時に必要な基本的な情報を発信する信頼できるサイトです。

専門家の個人サイトもテーマによってはとても参考になります。ただし、質は多様で、かたよった考え方が書かれている場合もあるため注意が必要です。今はSNSを利用する専門家も多く、意見やアドバイスを直接もらうことも可能になりましたが、その場合も同様です。

じつは私自身、ちょっと苦い経験があります。二〇〇〇年代なかば、クローン技術や遺伝子組み換え技術を取材していた頃のできごとです。

これらは人によって大きく意見の分かれる科学技術なので、使ってもいいのかどうかを科学者だけでなく一般の人々も判断できるようにするために、情報をできるだけ公平に提供するホームページをつくりました。

生物学や遺伝学、社会学や倫理学などさまざまな分野の専門家に協力してもらい、読者の質問に答えるコーナーも設けました。質問の内容によっては、私が調べたり取材したりして回答することもありました。全員がボランティアでした。

ホームページを開設してから半年ほどたった頃からでしょうか。中学生や高校生から似通った質問が届くようになりました。「学校で〇〇という課題が出たので、来週〇曜日までに回答してください」というものです。

始めのうちにはせっせと回答していたのですが、ある時から考え方を変えて、質問に回答するのではなく、質問者が調べを進めるために役立ちそうな情報だけお答えするようにしました。

B、まるごと回答するのは、まるで私たちが質問者の代わりに学校の宿題をしているようなものだと感じたからです。しかも、せっかく回答してもお礼のメールを送ってくる人は一人もいませんでした。

もしかして、質問している人たちはインターネットの向こうに生身の人間がいて、自分たちのために時間を費やして答えていることがわからないのではないだろうか、私たちの回答をそのまま宿題に使うことになんのためらいもないのではないだろうか、そんな疑問がわいてきました。

自分が蒔いた種とはいえ、インターネットの使い方やインターネットで得られる情報の扱い方については、私も含め、みんなもつとつと勉強しなければいけないんじゃないかと痛感しました。

その後、SNSが急速に発展して、当時よりはるかに簡単に専門家の人とつながることができるようになりました。質問すれば答えてくれる人はたくさんいるでしょう。

**C**、彼らは百科事典でも統計年鑑ねんかんでもありません。優れた知識をもつ人や親切な人はいますが、彼らとて一人の人間です。そもそも彼らの時間は無限ではありません。会ったこともない相手にくわしい情報を提供する義理はなく、その情報が間違っているとしても責任をとってくれるわけではありません。もつといえ、その人が本人であるかどうかの確証もありません。なりすまし、という言葉もあるように、にせものが本人になりますことが容易にできるのもインターネットの危うさです。

情報は疑ってかかるに越したことはありません。なんか変だ、なんかおかしいと感じたら自分でウラをとる。複数の本や事典を用いるのもいいですし、インターネットに書かれていることを本や新聞で、逆に本や新聞に書かれていることをインターネットで確認するのもいいでしょう。繰り返しですが、いくら確認しても確認しすぎることはありません。

(出典 最相葉月『調べてみよう、書いてみよう』講談社による)

## 問一

**A**、**C**に入る言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア そして      イ たとえば      ウ つまり      エ でも      オ なぜなら      カ そのうえ

## 問二

線1「最初に調べたいことの概要を把握するにはじつに便利な手段です」とありますが、なぜ便利なのか。「から。」に続くように本文中から十五字で抜き出さない。 (句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

## 問三

線2「紙のメディアのほうがインターネットよりも圧倒的に強い」とありますが、紙のメディアが強いと言えるのはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

問四

——線3「その場合も同様です」とありますが、どのようなことが同様なのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 情報の質が多様で、かたよった考え方が書かれている場合があるので注意が必要であること。
- イ 専門家が責任を持って正しい情報を発信しているので安心して調査に利用できるということ。
- ウ 専門家を名乗っていても、本人であるかどうか分からないため信用することができないこと。
- エ 専門家によって書かれた情報を複数の人が確認するので誤りがあればすぐに訂正<sup>ていせい</sup>されること。
- オ アドバイスや意見を専門家から直接もらえるので調べるときにとっても参考になるということ。

問五

——線4「質問者が調べを進めるために役立ちそうな情報だけお答えするようにしました」とありますが、このようにしたのはなぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 質問の回答をそのまま宿題に使ってしまうような未熟な中学生や高校生には、インターネットを利用させるべきではないと考えたから。
- イ 質問者が自分の力で課題に取り組もうとしていないことや、回答している生身の人間がいるのにお礼もしない態度に疑問を感じたから。
- ウ 質問に答えるためにわざわざ時間を取って調べたり取材したりしているのに、一方的に回答の期限を決められることに腹が立ったから。
- エ 質問者のためにどれだけ親切に回答をしてもお礼のメールが一通も来ないため、やりがいを感じることができなくなってしまったから。
- オ 質問者が自分の回答を宿題にそのまま使っているということに気付き、専門家ではない自分が回答してもよいのかと不安を感じたから。

問六

——線5「インターネットで得られる情報の扱い方」について、筆者はどのようなことが必要だと考えていますか。七十字以内で説明しなさい。

問七 本文の内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア インターネットの情報の中には間違ったものもあるので、実名で発信されている情報だけを利用しなければならぬ。

イ 新聞や雑誌には、インターネットと違って筆者のかたよった考え方が書かれていることが多いので注意が必要である。

ウ インターネット上で質問に親切に答えてもらっても、相手が誰か分からないので、むやみにお礼を言うてはいけない。

エ 新聞や雑誌は、多くの人が長い期間をかけて確認するうちに情報が古くなってしまうことがあるので、信頼性が低い。

オ 最近急速に発展してきたSNSを利用することによって、専門家の意見をより簡単に聞くことができるようになった。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「おい、健<sup>たける</sup>」

その日、練習を終えて家に帰る途中<sup>とちゆう</sup>、うしろから声がした。ふりかえった先にいたのは、達也さんだった。

「こんにちは」

おれは帽子<sup>ぼうし</sup>をとってあいさつをした。

達也さんは、兄ちゃんの同級生で、同じクラブチームの仲間だ。ふたりは少年野球のころからの友達で、中学生になってからは、学校の野球部には入らず、クラブチームに所属<sup>しよすく</sup>している。学校の野球部とクラブチームは、軟式<sup>なんしき</sup>と硬式<sup>こうしき</sup>の違い<sup>ちが</sup>ではなく、レベルが全然違うのだそうだ。クラブチームには、市内だけでなく、わざわざ遠くから、親に送り迎え<sup>むか</sup>をしてもらって通ってくる部員もいる。

「真太郎の調子はどうだった？」

達也さんは、少し眉<sup>まゆ</sup>を寄せた。達也さんは毎日見舞<sup>みま</sup>いに来ているが、今日からは来られない。

「これから出発<sup>しゅつぱつ</sup>ですね。ゴールデン杯<sup>はい</sup>」

達也さんの大きな荷物を見て、おれはたしかめた。明日から、兄ちゃんが照準<sup>しょうじゆん</sup>を合わせて練習をしてきた大事な大会がはじまるのだ。

「兄ちゃんの調子は、いいです」

1 胸<sup>むね</sup>につまるものを感じながら、おれは答えた。ゴールデン杯<sup>はい</sup>は、兄ちゃんにとって、大きな意味を持つことをよく知っていたからだ。この大会で、関係者の目にとまり、野球の名門校に進む選手もいれば、プロのスカウトマンに認められる選手もいる。

「そうか。よかった」

おれの返事に、達也さんは強<sup>こわ</sup>ばらせていたほおを少しゆるめた。

弟のおれから見ても、兄ちゃんと達也さんのきずなは深い。同じ投手として、気持ちが変わりあえるのだろう。バッテリーを組む投手と、捕手<sup>ほしゅ</sup>の関係が強いのは当たり前だが、同じポジションでないと、わからない思いがあるのだと、兄ちゃんも言っている。先発<sup>ひか</sup>と控え、たとえ立場は違っても、だ。

少年野球のころから、兄ちゃんは先発ピッチャー、達也さんは、控えのピッチャーだった。控えといっても三番手くらいの投手で、じっさいに試合で投げることはほとんどなかった。

2 「あんなことになるなんてな」

達也さんが悔しそうな顔をする。大事な試合を前に、親友の身をおそったアクシデントが、自分のことのようにショックだったみたいだ。

兄ちゃんがけがをしたのは、試合のスタメンが発表された日だった。

かんとくから先発を告げられたあと、ロッカールームに引きあげかけたとき、入り口の段差で転んだのだ。たまたま床がぬれていたらしく、ふみ出した足がすべってしまったという。とつさに利き手の左うでをかばったのは、ピッチャーとしての意識の高さだろう。さすがだ。

さらに達也さんといっしょだったのが、幸運だった。

「大丈夫、大丈夫」

と、A ロッカールームに入ろうとする兄ちゃんを制して、達也さんがコーチを呼び、病院に付きそってくれたからだ。

診断は右うでの骨折だった。ギプスで固定するだけでも治るが、その場合は多少の変形が残るかもしれないとのことだった。形が変わると機能にも影響がないとは言えない。幸い利き手ではなかったが、それでも大事なうでだ。お医者さんと家族、それにコーチと話し合った結果、手術をすることになった。

その程度ですんだのは、達也さんのおかげだと思う。達也さんが兄ちゃんの言うままにして、助けを呼ばなかったら、骨は変形してしまい、手術でもどすのが難しかったかもしれないと、お医者さんからきいた。がまん強い兄ちゃんだから、危なかった。

「あのときはありがとうございます」

だからあらためてお礼を言おうと、

「いやいや、そんな」

達也さんは照れた。

「じゃあな」

「大会、がんばってくださいね」

声をかけると、行きすぎようとした達也さんが立ち止まった。そして意味のわからないことを言った。

「ああ。真太郎に伝えてくれ。おまえの分まで一生懸命<sup>いっしょうけんめい</sup>投げるからって」

「あ、はい」

いぶかしく思いながらも、おれはひとまずうなずいた。達也さんの目が、あんまり真剣<sup>しんけん</sup>だったから。

達也さんの言った意味がわかったのは、家に帰ってからだった。夕飯のとき、母さんが教えてくれたのだ。

「初戦は達也くんでいくんだって。真太郎の分までがんばってほしいわね」

母さんの話に、カレースプーンを持つ手が止まった。心臓<sup>しんぞう</sup>がざわりと音をたてる。

<sup>3</sup>「兄ちゃんは知ってるの？」

「うん。メールでいろいろ相談にのってたみたいよ」

やっぱりな。

B

このごろ兄ちゃんがいたわけが、わかった気がした。達也さんが自分のかわりに投げるのが、気に入らないんだろう。だって達也さんは、二軍だから。

おれにはそれがよくわかる。

「健もお兄ちゃんにいろいろきいてみたら？ つぎは先発でしょ」

「う、ん」

島田くんの顔が浮<sup>う</sup>かんで、口の中のカレーが、苦くなったような気がした。

先週、つぎの試合のスタメンが発表された。おれは目を疑った。先発投手のらんに、自分の名前があったからだ。そこには、六年生の島田くんの名前があるのが普通<sup>ふつう</sup>だったから、おれは思わず顔を見てしまった。<sup>4</sup>島田くんは、真っ赤になっていた。

たしかにこのところ、島田くんはスランプらしい。打たれるし、打てない。でも、だからと言って、これはないだろう。おれは首をひねった。だっておれは二軍だ。

「このごろ、健は調子がいいからな。ちよつとやってみろ」

5  
かんとくの言い方は軽かったが、おれには、返事ができなかった。島田くんがこつちをにらんでいるような気がしたからだ。  
島田くんは、おれなんかが先発をやるのが悔しかったのだと思う。当たり前だ。実力がぜんぜん違う。おれは、公式戦で投げた  
こともないのだ。

「は、はい」

やっとかえした返事は、思った以上にかすれていて、おれはますますいごちが悪かった。

(出典 まはら三桃『なみだの穴』小峰書店による)

問一

A・Bに入る言葉として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア うわついて    イ 喜んで    ウ 強がつて    エ ふざけて    オ いらついて    カ ためらつて

問二

——線1「胸につまるものを感じながら、おれは答えた」とありますが、胸につまるものを感じたのはなぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 兄ちゃんのけがの経過が良くないことを達也さんには秘密にしていたが、ついに気づかれてしまったのではないかと不安に思ったから。

イ けがの治りは順調だが、将来野球を続ける上で大きな意味を持つ大会に兄ちゃんが参加できないことを、弟として残念に思ったから。

ウ けがのせいで大会に出られない兄ちゃんのつらさを理解せずに、無神経な質問をする達也さんを、弟として腹立たしく思ったから。

エ けがをした兄ちゃんが、大切な大会で親友の達也さんとバッテリーを組めないことを、同じ野球経験者としてかわいそうに思ったから。

オ 兄ちゃんはけがをしても前向きにがんばろうとしているのに、野球の技術が上達せずに落ちこんでいる自分を恥ずかしく思ったから。

問三

——線2「達也さんが悔しそうな顔をする」とありますが、なぜですか。「くから。」に続くように本文中から四十五字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問四 — 線3 「兄ちゃんは知ってるの」とありますが、どういうことを知っているのですか。二十五字以内で説明しなさい。

問五 — 線4 「島田くんは、真っ赤になっていた」とありますが、このときの島田くんの気持ちはどのようなものだと考えられますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 実力を全く重視しないかんとくの気まぐれに対する不信感といらだち。

イ 年下の健に顔をのぞきこまれたことに対するふがいなさ<sup>さ</sup>と腹立たしさ。

ウ 仲の良い健が先発投手に選ばれたことに対するうれしさ<sup>さ</sup>とたのもしさ。

エ 自分が先発投手として選ばれなかったことに対する悔しさと恥<sup>は</sup>ずかしさ。

オ スランプ中の自分が先発投手に選ばれたことに対する疑問と照れくささ。

問六 — 線5 「おれには、返事ができなかった」とありますが、このとき健はどのような気持ちになっていると考えられますか。七十字以内で説明しなさい。

【三】 次の各問いに答えなさい。

問一 次の――線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 話し合いのキカイを作る。
- ② 犯人をトクテイする。
- ③ 野鳥をホゴする。
- ④ 栄養をオギナう。
- ⑤ オサナイ弟がいる。

問二 次の――線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 舞台からゆつくりと降りる。
- ② 彼は著名な作家だ。
- ③ 説明を省略する。
- ④ 美しい宝石で装う。
- ⑤ 電車のダイヤが乱れる。

問三 次の――線部の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

① 辺りは水を打ったようになった。

- ア ざわめいた  
イ きれいになった  
ウ 静まりかえった  
エ 涼すずくなった  
オ ずぶぬれになった

② 彼は腰が低い人だ。

- ア えらそうな  
イ まじめな  
ウ いいかげんな  
エ さわやかな  
オ ひかえめな

③ うららかな春の日。

- ア 花が咲さいてにぎやかな  
イ 今にも雨が降りそう  
ウ 空が晴れておだやかな  
エ そわそわと落ち着かない  
オ ぽかぽかと暖かい

問四 次の各文には誤った文字が使われています。その文字を抜き出し、正しい漢字に直しなさい。

- ① がんばって勉強した結果、優秀な成績で試験に合格して、友人たちから祝福された。  
② 消防隊員は日頃から消化活動をしつかりと行えるように、厳しい訓練をしている。

